夢窓幼稚園通信第19号

2020年　6月30日

遊牧や水上生活・・・・と、今の自分のとはずいぶん異る生活もたくさんあることでしょう。それぞれの土地ならではの環境やしきたり、価値観や美意識・・・などによって暮しぶりは様々でしょうが、世界中どこでも誰でもが屋根の下で安心して眠れていたらいいなと思います。

雨の季節、少々激しく降る雨音を聞きながら報道された新型ウィルスによる世界各国の様子を脳裡に浮かべ、いろいろ思い巡らしていました。

6月20日は「世界難民の日」でしたが、その日に発表されたUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)からの報告によると、2019年に紛争や迫害を受けて家を追われ難民生活を余儀なくされた人々(一部自然災害等による避難民の方も含め)は、7,950万にも及ぶそうです。

♪うさぎおいしかの山　こぶなつりしかの川　〜〜〜

「故郷」のメロディーが高い空の上で、身体の奥深くで流れているような気がしました。

生まれ育った故郷を離れざるを得ず、テントや仮住いの人々、ことによると野宿しながら過す人々がいなくなるように、そして大切な自分たちの土地に帰っていつもの生活を続けられるようにと、次のセタにお願いすることにします。

私たちの母なる地球は、海や山や川や森・・・・という大自然の様々な相貌を持ち、季節の多様な表情を現しながら、私たち人間や動物、草木・・・を生かしてくれています。もっと言うなら地球の一部の富士山であったり、嵯峨野であるように、地球の一部のミツバチであり、地球としての人間なのかもしれません。

絶えることのない紛争や暴力はもちろんですが、近年頻繁に起こる生態系や気候変動による災害も、ことによるとコロナウィルスも、私たちの生き方の延長線上から生じてきたとするなら、他ならない自分自身を私たちによって傷つけているということにもなります。

長い歳月私たちは宮沢賢治の童話にあるように、森に「ここへ畑起こしてもいいかあ」「家建ててもいいかあ」・・・「すこし木もらってもいいかあ」と尋ねて了承を得たり、分けてもらうという感覚を持って生きてきたのだと思います。

ですから、私たちは母なる大地と共に生きていたし、共に夢見ていたのに違いありません。

今私たちは、大地に対して夢見ているでしょうか、地球の未来を夢見ているでしょうか、

地球は私たち人間の未来に対して、果たして夢描いているのでしょうか、

・　・　・　・・・・

7月子どもたちが夢の世界でいっぱい遊び、大人たちも仲間に加えてもらい夕涼みの夕べ・・・・小さな「なつまつり」に、トワイライトドゥリームのうれしい時間を持つことができますように！

園長　外光泰雄